

## 令和6年度昭和館運営事業計画案について

## 1 令和6年度昭和館運営事業予算（案）

	令和6年度	令和5年度	前年度比
<歳入関係>			
1. 昭和館運営委託費	464,487千円	469,012千円	△4,525千円
2. 昭和館運営収入	19,255千円	19,255千円	0千円
合 計	483,742千円	488,267千円	△4,525千円
<歳出関係>			
1. 事務人件費等	59,129千円	59,129千円	0千円
2. 管理諸費	178,700千円	178,900千円	△200千円
3. 事業人件費等	102,997千円	102,997千円	0千円
4. 資料購入・整備関係	31,800千円	32,200千円	△400千円
5. 情報機器関係	49,500千円	49,500千円	0千円
6. 展示替え経費	2,400千円	2,400千円	0千円
7. 特別企画展経費	21,000千円	21,000千円	0千円
8. 来館促進経費	19,566千円	20,491千円	△925千円
9. その他	18,650千円	21,650千円	△3,000千円
合 計	483,742千円	488,267千円	△4,525千円

※ 上記に加え、情報検索システム改修経費及び特別企画展用ガラスケース更新経費等を令和5年度補正予算に78,228千円計上し、令和6年度に繰り越して実施予定。

## 2 広報活動計画

### (1) 昭和館事業のPR活動等

昭和館の事業内容のPR及び春、夏の特別企画展の案内を行い、交通機関の主要駅にポスター等を掲示する。また、東京メトロ九段下駅4出口、東西線2番ホーム、半蔵門線3番ホームの電飾掲示板に掲示し、集客に努める。九段郵便局、さらに、東京メトロ・東京都交通局一日乗車券特典ガイド「ちかとく」、JT Bや千代田区等のガイドブック、毎月発行される千代田区区報に当館の紹介記事を掲載する。

その他、新聞広告等については、主要新聞等や日本教育新聞に掲載をする。

### (2) 広報資料の送付等

「昭和館館報」については、都道府県、政令指定都市、東京特別区、教育委員会、老人クラブ連合会、各省庁図書館に対し送付する。なお、都道府県遺族会、類似施設、大学図書館等には、「昭和館館報」と「昭和のくらし研究」を併せて送付し、昭和館の周知徹底を図る。

また、令和6年6月頃に、昭和館と学校をつなぐ広報誌「昭和館だより」第41号を全国の公立小・中学校・中等教育学校と令和5年度の来館小学校・中学校、さらに、東京都の校長会等で配付依頼した公立小学校に発送し昭和館の周知を図る。なお、令和6年12月頃には「昭和館だより」第42号を送付し、社会科見学等の学校行事としての来館促進を図る。

### (3) 刊行物の発刊

以下の刊行物を発刊する。

- ① 「昭和館館報」25号（令和5年度版）
- ② 「昭和のくらし研究」（第23号）

## 3 来館促進対策

### (1) 第23回昭和館作文コンクール

令和6年度も引き続き実施し、7月に募集を開始する予定で進めていく。

### (2) 第17回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール

令和6年度も引き続き実施する（7月上旬に募集開始予定）。

### (3) 貸出キット

実物資料や展示用パネル等の貸出を行う。

小中高等学校、公共団体及び各地の遺族団体に働き掛け、更なる利用促進を図る。

### (4) 紙芝居定期上演会

昭和館所蔵の紙芝居上演会を、奇数月の第4土曜日にニュースシアターまたは2階ひろばにおいて実施する。

開催予定日：令和6年5月25日、7月27日、9月28日、11月23日、  
令和7年1月25日、3月22日

## 4 展示事業

### (1) 常設展示

長期展示による資料の劣化を避け、より多くの方々の寄贈資料を紹介するため、常設展示室を休室して資料の入替と清掃作業を行う。1回目は令和6年7月29日(月)から31日(水)の期間で資料交換作業を実施する。2回目は令和7年1月7日(火)から約2ヶ月間休室し、常設展示室LED照明改修工事および展示替え工事(体験ひろば改修)、資料交換作業を実施する。

### (2) 特別企画展

#### ① 昭和館開館25周年記念 特別企画展

「昭和を駆け抜けた超特急 ～燕(つばめ)、そして新幹線～」(再掲) **【資料5】**

○開催期間

令和6年3月9日(土)～5月6日(月・祝)

○会場

昭和館3階 特別企画展会場

○後援

千代田区、千代田区教育委員会

○内容

新幹線が登場する以前、「超特急」と呼ばれた人々の憧れる特急列車がありました。その特急列車「燕」は昭和5年10月、東京―神戸間を約9時間で結び、従来の同区間の所要時間を2時間以上も短縮させたことから、当時では画期的な特急列車として活躍した。

本展覧会では、超特急「燕」が誕生した昭和初期から「夢の超特急」新幹線の登場までの軌跡を紹介する。

#### ② 昭和館開館25周年記念 特別企画展「慰問展」(仮称)

○開催期間

令和6年7月20日(土)～9月8日(日)

○会場

昭和館3階 特別企画展会場

○後援(申請予定)

千代田区、千代田区教育委員会(申請予定)

○内容

本展覧会では、戦地へ送られた手紙や贈答品、慰問として行われた芸能活動など、戦中・戦後の慰問について紹介する。

### (3) 巡回特別企画展

- ① 昭和館・しょうけい館・平和祈念展示資料館 3館合同企画展  
「くらしにみる昭和の時代 大分展」

○開催期間

令和6年6月19日(水)～6月30日(日)

○会 場

大分県立美術館 1階展示室A  
(大分県大分市寿町2-1)

○主 催

昭和館 しょうけい館 平和祈念展示資料館

○協力・後援等(予定)

協 力 一般財団法人大分県遺族会および日本遺族会第5ブロック

後 援 大分県 大分市 大分県教育委員会 大分市教育委員会  
大分合同新聞社 西日本新聞社 朝日新聞大分総局  
読売新聞西部本社 NHK大分放送局 OBS大分放送  
TOSテレビ大分 OAB大分朝日放送  
OCN大分ケーブルネットワーク 大分ケーブルテレコム

○内 容

戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世に伝えるため、実物資料・写真資料・映像資料等を通じて、困難が多かった時代における人々のくらしを紹介する。

## ② 「くらしにみる昭和の時代 京都展」

### ○開催期間

令和6年12月18日(水)～27日(金)

### ○会場

京都市勧業館みやこめッセ 地下1階展示室  
(京都市左京区岡崎成勝寺町9-1)

### ○主催

昭和館

### ○協力・後援等(予定)

協 力 一般財団法人京都府遺族会および日本遺族会第3ブロック  
後 援 京都府 京都市 京都府教育委員会 京都市教育委員会  
在京都マスコミ各社(申請予定)

### ○内容

戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世に伝えるため、実物資料・写真資料・映像資料等を通じて、困難が多かった時代における人々のくらしを紹介する。

## (4) 写真展(2階ひろばにて)

令和6年3月12日(火)から6月30日(日)まで「失われゆく昭和の仕事ー戦中・戦後の街頭風景ー」(仮称)と題した写真展を予定している。今では見かけることの少なくなった昭和の仕事を紹介する。【資料6】

令和6年は開館25周年記念の年となることから、通常開催している秋期(9～12月)と春期(令和7年3～5月)だけでなく、通年で写真展の開催を予定している。

会期及びテーマは検討中であるが、7月～10月(日本写真家協会の写真展)、11月以降は戦後80年に向けて、当館開館時より収集している写真家石川光陽の写真展を戦前・戦中・戦後と3期に分けて展示を検討している。

## 5 資料収集

### (1) 実物資料の収集

令和5年度に引き続き、収蔵庫の整理を進める。資料収集については、長期的な展望に立ち、資料情報を慎重に精査した上で受入れを検討する。資料修復は従来通り進める。

### (2) 文献・図書資料の収集

令和6年度も、戦中・戦後の生活関連図書及び戦争に関する基本的図書等のうち、特に戦中・戦後の国民生活に関する図書資料の充実を図ることとする。

利用者からの閲覧要望が多い『少年倶楽部』『少女倶楽部』『婦人倶楽部』など当時愛読された雑誌の欠号補充を行うとともに、昭和館収蔵図書の一つの特徴である手記や体験集、戦中・戦後にかけての日本各地の写真集や児童書などの収集に力を入れていく。また、昭和館HPやチラ

シ等による資料寄贈の呼びかけは継続して行う。

### (3) 映像関連資料の収集

令和6年度においても戦中・戦後の国民生活に関する動画、静止画の収集を行う。

### (4) オーラルヒストリーの制作

体験者の証言を映像で記録して残すとともに、資料公開コーナーや巡回特別企画展、貸出キットなどを通して公開していくことを目的にオーラルヒストリーの制作を実施している。映像音響室で現在公開している作品数は402作品である。

令和6年度においても、戦中・戦後の苦しかった生活の実態や戦後復興にご苦労された方の証言も加え、内容の充実を図っていく。

## 6 戦中・戦後の労苦を伝える語り部活動事業

昨年度に引き続き「次世代の語り部」として講話活動を実施するとともに、講話の充実と「次世代の語り部」としての知識や意識の向上をはかるためにフォローアップ研修を実施する。

## 7 情報検索システムの充実

### (1) 図書・雑誌資料のデータ入力

図書・雑誌の検索や閲覧のため、令和5年度に受け入れた資料を中心に約2,000冊の装備と書誌データ・目次データの入力を行い、来館者が利用できるようにする。

### (2) 図書・雑誌資料のデジタル化

これまでも資料の破損などによって原本を提供することが難しく、デジタルデータでの提供に移行した方がよいと思われる雑誌を中心にデジタル化を進めてきたが、「昭和館デジタルアーカイブ」での公開も見据え、図書資料についても順次デジタル化を進めていく。

### (3) 映像・音響室におけるデータ公開

昨年度に引き続き、収集した資料の整理を行い館内アーカイブ及び昭和館デジタルアーカイブでの公開を進める。前年度から継続して整理を行っている主な資料は以下のとおり。

資料種別	内容
写真	令和元年度に入手した師岡宏次氏の写真（継続） 総数約30,000点のうち、約18,000点のデジタル化（データ化）が終了している。
映像	令和2年度に入手した「映像タイムトラベル」、令和3年度に入手した「朝日ニュース」
音響	リクエスト資料及び国立国会図書館が配信する「歴史的音源」にない資料を中心にデジタル化（音源データ、盤面スキャン）

#### (4) SNSの活用

エックス（旧ツイッター）やフェイスブックを活用し、ニュースシアターの番組紹介、図書室での資料紹介等を随時アップして来館者の利用促進を図る。

### 8 資料の公開・展示

#### (1) デジタルアーカイブの充実

令和5年4月に昭和館デジタルアーカイブを公開し、令和6年1月末日までのアクセス件数は710,566件であった。

現状、図書・雑誌資料及びSPレコードについては目録公開のみを行っているが、これらの資料についてもデジタルデータの公開をめざし、システム改修及び資料のデジタル化の準備を進める。

図書・雑誌・SPレコードいずれも著作権の問題をクリアできる資料が対象となるが、図書・雑誌については、国立国会図書館でもデジタル化が進んでいるため、昭和館ならではの収蔵資料を選択する。

#### (2) 昭和館懐かしのニュースシアター

収集したニュース映画を「昭和館懐かしのニュースシアター」で毎日上映しており、引き続き実施する。プログラムは毎週土曜日に更新しており、戦中・戦後の同時期に撮影されたニュース映画を紹介するとともに、過去に制作したオーラルヒストリーについても上映していく。

#### (3) 資料公開コーナーの運用

5階映像・音響室及び4階図書室の利用促進と、収蔵資料をさらに多くの方に関心をもって見ていただくことを目的に1階ロビーの「資料公開コーナー」で、写真、映像、SPレコード、図書・雑誌などを紹介する展示を継続して行う。話題の事柄等をテーマに取り上げて、年4回程度の展示を行う。

#### (4) 館内の検索システム

収集した図書資料をはじめ、映像資料、静止画資料、音響資料などの資料データベースの作成及び映像、静止画、音響資料のデジタル化を行い、館内の検索システムで順次公開していく。

#### (5) 資料紹介

図書室では、テーマを設定した関連資料の紹介を定期的に行うとともに、時事的なトピックや特別企画展や写真展等に関連する資料については随時紹介していく。

また、夏休みには子ども向けワークシート等を作成し小・中学生の利用促進を図る。

#### (6) 昭和館SPレコード鑑賞会

当館所蔵の戦前・戦中・戦後の楽曲や漫才等のSPレコード資料を多くの来館者に紹介するため、鑑賞会を開催する。

## 9 関係施設との連携

### (1) 関係施設等連携会議の開催

戦中・戦後の労苦について国民への理解を深め、戦争を知らない世代への継承を図るため「昭和館」「しょうけい館」「平和祈念展示資料館」が連携して事業を推進する。

年2回関係施設等連携会議を実施予定。

### (2) 「夏休み3館めぐりスタンプラリー」の実施

引き続き、夏休みの児童・生徒を対象として令和6年7月から9月まで「夏休み3館めぐりスタンプラリー」を実施予定。

### (3) 巡回特別企画展の相互協力

大分県における巡回特別企画展（「しょうけい館」、「平和祈念展示資料館」と「3館連携企画展」）の開催

令和6年6月19日（水）～30日（日）

### (4) 移動教室（千代田区立九段生涯学習館）について

平和祈念展示資料館が実施予定の特別展（千代田区立九段生涯学習館）との連携を行う。

## 10 運営専門委員会の開催

昭和館運営事業について有識者から様々な意見を聴取するため、令和6年度も昭和館運営専門委員会を2回開催予定。

## 11 開館25周年記念事業

平成11年3月27日の開館から、3月27日（水）に開館25周年を迎えることから、令和6年度は以下の記念関連事業・イベント等を実施し、昭和館の認知度を高めていく。

なお、令和7年度の戦後80年（昭和100年）記念事業についても検討を進め、必要に応じて予算措置を要望する。

（開館25周年記念事業の一例）

- ① 開館記念日終日常設展示室無料及び先着25組限定粗品贈呈等
- ② 開館25周年記念スタンプラリー（達成度に応じた粗品贈呈）
- ③ 特別映画上映会（厚労省または文科省推薦映画等）
- ④ 落語上演会（柳家さん八氏予定）
- ⑤ 開館25周年記念メモリアル懸垂幕掲揚（1月18日より掲揚済）
- ⑥ 4月以降、毎月25日先着25組限定粗品贈呈
- ⑦ 高校生・大学生を対象とした語り部との交流企画「戦中・戦後の生活から戦争を考えるin昭和館（仮称）」開催